

【平成16年度専修学校先進的教育研究開発事業】

事業名	「ビジネスプロデューサ育成プログラム開発およびその実証」		
学校法人名	学校法人日本コンピュータ学園		
学校名	東北電子専門学校		
代表者	理事長 持丸 寛一郎	担当者・連絡先	校長 佐藤 公一 電話 022-224-6501
<p><事業の概要></p> <p>日本の産業・経済が世界の中で確固とした競争力・優位性を再構築するためには、若い起業家の育成は大変重要であるとともに急務である。本事業では、卒業後に起業を目指す学生を対象として、実践的なビジネスマインドを学習するためのケーススタディ教材を開発する。</p> <p>また、その教材を用いて学生ならびに指導教員を対象に研修を行い、具体的なビジネスプランを策定させる。さらに、学生が考案したビジネスプランについては、その評価を行うためにビジネスモデルコンペティションを開催し、起業家からの評価を受ける。</p> <p><成果></p> <p>ビジネスプロデューサ教育実態調査</p> <p>現在専門学校で行われている「ビジネスマインド」に関する教育内容、教員としての能力、教育進行上の問題点等を把握するため、ビジネス、経営等の学科を持つ専門学校を対象に実態調査を行った。結果として、回答校の80%が起業やベンチャービジネス等の考え方、マインドを科目に導入、あるいは今後教育に取り入れることを検討していると答えている。また、教材としては知識レベルのものより、具体的事例やケーススタディを求める声が高い。</p> <p>教育プログラムの開発</p> <p>教材の開発にあたり、以下の5つの方針を決定、3種の教材を開発した。</p> <p>5つの方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 「覚える能力」より、「考える能力」を伸ばす 「実務の知識」ではなく、「事業運営の知識」を身に付ける 「ビジネス・アイデア」を湧かせる能力を身に付ける ビジネスプロデューサーの「マインド」を身に付ける 「理論」ではなく「現実」を理解し、対処する能力を身に付ける <p>開発されたビジネスプロデューサ育成教材</p> <ul style="list-style-type: none"> B Pナレッジ編 B Pマインド編 B Pアイデア編（ケーススタディ） <p>これらについては、次年度以降の教材として広く活用していただけるよう、全国の専門学校 834 校に配付している。</p> <p>実証研修（ケーススタディ研修）の実施</p> <p>今回開発した教材については、これらを用いた学生向け、教員向け実証研修会においてそれぞれ受講者からの評価を受けた。</p> <p>学生向け研修においては、「将来役に立ちそうか」という質問に対し、「大変そう思う」、</p>			

「そう思う」との答えが合わせて66.7%に達し、今回学んだことを活かしながら自分の知識、仕事の意欲、発想力を高めたい等の前向きな意見が多数見られた。

教員向け研修においては、全ての受講者が「大変実践的な内容である」「実践的な内容である」と答えるなど、たいへん好評であった。

学生向け実証研修の様子
(プレゼン資料作成中)



ビジネスプロデュースコンペティションの開催

平成17年2月に、ビジネスプロデュースコンペティションを開催。学生を対象として広くビジネスプランの募集を行った。応募24プラン、一次審査を通過した9つのビジネスプランについて、起業家、会社経営者など現役ビジネスマンの審査員を相手に、学生によるプレゼンテーションが行われた。一次審査通過プラン、審査員の講評は統括報告書に取りまとめ、全国の専門学校834校に配付した。

ビジネスプロデュースコンペティション 学生発表風景



第一次審査を通過したビジネスプラン(9タイトル)

「女性データ」を活かした新規就職支援サイトの運営

犬との触れ合いや、犬を介在した人との交流により「質の高い“生”(LIFE)」「社会性・人間性の向上」を促す、飼育型のアニマルセラピーを実施

Discover design plan ~社会に埋もれたデザインを発掘する~

HotなHOME TEACHER ~生活提案型家庭教師~

~ゆとりある空間の中で、昔の思い出に触れながら、全国郷土料理の味を楽しむ~

ペットと人間(飼い主)の快適な暮らしをサポート あなたのおうちで安心トリミング

口コミ専門美容情報サイトを中国に開き、中国に進出する化粧品メーカーに消費者の

生の声を届けるビジネス

「インターフェイスのゲーム化」「バナーのアイコン化」「広告からエンターテインメントへの移行」

日本経済の活性化と、農業の拡大化、国内自給率の向上をはかるビジネスプラン。

将来展望

研修から始まって、ビジネスプランの企画、コンペティションの場でのプレゼンテーションといった一連の活動を通じて、学生の潜在能力が確認され、コンペティションという目標を目指して総合的に学習していく過程の有効性が実証された。

今後の展開としては、

在学中に、如何に起業家（企業家）との接点を多く持たせられるか

コンペティションのカリキュラムの中への位置づけ

の2点が重要であり、この点を重視しながら今回の一連の活動を発展させていきたい。